

洪水年表

		概	要
1602	慶長7年	横田川洪水。	
1609	〃 14年	高津川大出水により小高津の能野神社が流出。	
1613	〃 18年	西横田村下之郷小山の神宮流失、本横田村と西横田村との境界が藪になり下畑16石7斗蒔きを失い家数も27軒を流失。	
1631	寛永8年	大洪水で横田下市が冠水、ためにむくろじ台の横田中八幡宮が流失。	
1639	〃 16年(5月)	高津川の新川が崩壊し吉田平野に後川を作った。	
1643	〃 20年(7月18日)	大風雨のため大洪水となり、金地境から向横田の小山八幡宮まで田畑は冠水、家数18軒を流失。	
1670	寛文10年(7月7日)	向横田大佐古谷の農家27軒流出。	
1698	元禄11年(6月28日)	高津川洪水向横田の下組にかけ田17町、戸数27戸を流失して川となった。	
1714	正徳4年	高津川洪水で横田の田畑の流失は41町2反歩にわたった。	
1729	享保14年(6月)	益田川に大洪水。	
1753	宝暦3年	高津川大洪水 横田の流失田地500町歩。	
	〃 (6月28日)	上波田民家多数が流失、益田でも多数の民家が流失。	
1770	明和7年	高津川洪水 横田の流失田地は2町1段歩に及んだ。	
1789	寛政元年(6月)	高津川の増水1丈4尺(約4m)に及び、須子河原の津和野藩御茶屋及び御荷物小屋を流失、御高札場の土台の石垣まで溢れた。	
	寛政7年(6月5日)	益田川の水流が3つに分れ古川では3軒、門所14軒、堀川40軒を流失。 新高津川は川床を西中ノ島地内に変更したので高津川の西側に中ノ島の飛地を作り吉田・下本郷の田地を流失させた。 横田の流失田畑は11町1段歩 津田沿岸の損失は高10石2斗6升4合に達した。 宇津川においては7歩方の田地を流失。	
1804	文化元年	洪水のため高津川の川口が東方中須村の方へ移動した。	
1822	文政5年	高津川洪水で横田の流失田畑34町1段歩に及んだ。	
	〃 8年(6月2日)	洪水 津田村の田畑損害は5町5段に達した。	
1828	〃 11年(6月14日)	洪水 津田村では砂入田損い2段、水押し3段、岸崩れによる損害5段余りに及んだ。 乙吉村の恵古、勤先、木戸ノ前辺の益田川堤防所が破れた。	
1836	天保7年(6月11日)	高津川の水かさは26尺(8m)、益田中市、下市の浸水高さは2	

		概	要
		尺、高津、須子、吉田、中島の一円は浸水のため流失家屋 100 戸、死傷者15人、益田大橋は流失。	
		横田の流失田地は43町8段5畝歩、益田の流失田地は43町8段5畝歩。	
		津和野領内の損失は田畑収納の損耗高 44.394 石 8 斗 8 升 8 合 4 勺 (敷高 61.151 石 8 斗 8 升 8 合)、流失家屋 422 軒、潰家 168 軒、損家 556 軒。	
		井手落 1,576 ケ所 土手切17ケ所 橋の流失 439 橋 ついぬけ 14,192 ケ所 流失人 241 人。	
1837	天保 8 年(6 月)	連日の雨で11日大洪水、青原から川下は人家が相等流れ死者もあった。	
1850	嘉永 3 年(6 月 1 日)	小高津の船問屋大中屋田村家流失。高津の中市、下市は鴨居まで浸水、田地及び家屋が多数流失。	
	“ (6 月 5 日)	高津の洪水により横田の流失田地は51町に及んだ。	
1851	嘉永 4 年(6 月 20 日)	洪水のため津田村では収穫が 6 ~ 7 割であった。	
1864	元治元年(6 月 5 日)	洪水 津田村の損害面積は 6 段 2 畝17歩高 4 石 4 斗 6 合に達した。	
1865	慶応元年	高津川大洪水 流失田地は14町5段に及んだ。	
	明治 8 年(7 月 20 日)	平水より 1 丈 (3 m) の増水、津田村長面の堤防は破壊された。	
	“ 9 年(3 月 26 日)	暴風雨 遠田村で 3 戸倒壊	
	“ 17 年(8 月 26 日)	高津川出水 損害箇所は堤防 8、水割 3、橋梁 7、用水路 2、井土堰 1、船 2 に及んだ。	
	“ 18 年(6 月 1 日)	高津川出水 損害橋梁 6、用水路 1、堤防 2、欠所 1。	
	“ 19 年(1 月 24 日)	高津川増水 損害家屋 46、堤防 11、道路 4、橋梁 9、水割 7。	
	“ 26 年(10 月 14 日)	高津川増水 1 丈 8 尺 (約 6 m)、損害家屋 29 戸、橋梁 15、田畑の流失は 4 町 5 段歩。	
	“ 27 年(9 月 11 日)	吉賀、匹見両河川の最高水位は 2 丈 3 尺 (約 8 m) 以上になった。	
		高城、安富、横田、内田、須子、吉田の流域地内はいずれも浸水し高角橋もついにくずれて流失した。	
		内田村、飯田村へかけての氾濫は甚しく久城八幡川尻でも 5 尺 5 寸 (約 2 m) の水があった。	
		(高津川筋)	
		死者 22 人 負傷者 24 人 倒潰家屋 92 棟 同半潰 588 同流失	

	概	要
		125棟 田畑の潰れ37町2段 同破壊511町7段歩等。 (益田)
大正6年(9月14日)		決潰又は破損の堤防639間、道路28間8分、橋梁2ヶ所。
大正8年(7月4日)		大出水のため吉田平野は一面の湖水化した。
		高角橋の増水は1丈9尺5寸(約6m)に達し、神田橋とともに 流失。横田、安富、内田、須子、吉田の一円は道路上に数尺も浸 水、500町歩の吉田平野を泥海と化し、益田町も全町浸水し同町 の橋を全部失った。
昭和10年(6月30日)		大洪水のため国道神田橋は流失、高津橋は危険状態となった。 益田川増水1.8m。
昭和16年(7月10日)		石西地方に大洪水 角井の高津川にそう鉄道線路と高角橋が流失、 高津の土蔵および角井の人家が倒壊した。
昭和18年(9月19日)		19日の朝から20日まで降り続いた雨で益田川、高津川などが氾濫 し大水害となった。(高津川においては神田および横田の堤防を 破壊しさらに飯田の上、高津上市、石見人絹工場背後、須子の上 角井の鉄道線等の堤防を破壊した。)
		死者93名 行方不明15名 流失家屋33戸 全壊家屋184戸 半壊 家屋1,770戸 床上浸水家屋863戸 流失橋梁の被害は6万6千 500円 道路の被害は19万4千円。
昭和29年(9月20日)		台風15のため高津川の水位は5.3mに達し飯田、向横田で30戸が 浸水。
昭和30年(7月6日)		
昭和32年(7月3日)		
昭和35年(7月7日)		
昭和40年(7月22日)		
昭和46年(8月5日)		台風19号
昭和47年(7月12日)		梅雨前線

参考図

- (1) 藩制時代の治水施設図
- (2) 明治30年代の治水施設図
- (3) 昭和7年高津川改修計画図
- (4) 高津川改修区域図(内務省)